

若手部企画川柳投票結果について

【若手部長あいさつ】

この度は、若手部企画「川柳募集及び投票」にご協力いただきありがとうございました。419 句も集まり、日々川柳に親しんでいる方が多いことに驚いております。会員の皆様から投票していただいた結果をお知らせいたします。紙面の都合から上位 10 人までとさせていただきます。

また、今後の作品づくりの参考にしてもらうことを目的に、川柳宮城野社主幹、宮城県川柳連盟理事長、雫石隆子先生にご依頼し講評と添削をしていただきました。雫石先生にはお忙しい中お引き受けいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。

会員の皆様には、今回の企画をきっかけに、今後も日々の生活の中で川柳を楽しんでいただければと存じます。

【川柳投票結果】

会員の皆さんから気に入った作品に投票していただきました。ご協力ありがとうございました。

投票総数 6,445 票

(敬称略)

順位	川柳番号	川 柳	区	名 前	票 数
1 位	79	マスク顔挨拶交わして誰だっけ	泉区	相澤キヨ子	115 票
2 位	307	電話して俺だと言ったら直ぐ切られ	青葉区	中沢常夫	93 票
3 位	123	来ねでける地震もコロナも戦争も	太白区	伊藤善健	90 票
4 位	57	一言が足りない俺に多い妻	泉区	坂爪卓	85 票
4 位	170	お隣さん元気ですかと回覧板	太白区	小松外治	85 票
6 位	11	あ、あれあの顔は分かるが名前出ず	太白区	泉清光	84 票
7 位	187	まあいいかなんとかなるさ老いの道	青葉区	春日忠夫	72 票
8 位	2	年重ね手すりかほしい坂の町	太白区	小林晴江	68 票
8 位	62	コロナ禍でマスク美人が急増中	泉区	岡田年民	68 票
8 位	215	ムダ使い、マスク、モリカケ、桜、国葬	泉区	佐藤範昭	68 票

【雫石先生の講評】

作品で、多かったのが中八です。でも、川柳で大切なのは中七です。そのルールを守ってもらいたい。

それから、下五と言いますけれども、一つの名詞で固まって六音の場合は可とします。それから、上五も五音ですけれども、これも許容範囲がありまして、例えば四音でも六音でも、できないものはそれでよしという、そういう範囲です。

まず、川柳は定型の文芸であるということを頭に入れてもらわないといけないと、こう思います。ですから、まず五七五です。

ところが、俳句をやっている番組がありまして、見ている方は多いかと思いますが、例えば八音、九音で総音数が十七音というもの、これも許容の範囲内に入っております。これも一つのスタイルです。それから十音、七音もあれば、六音と十一音とか、そんなふうに分けて総音数が十七であれば、これも OK と今はされております。これも一つの形になっているということが認められています。

それから、五七五ですけれども、七七七の二十一音までは、これも許容範囲といたします。十七音でなくてもね。それから七七五も五七七もありますし、それから五五七で総音数が十七というものもあります。これも可です。だから、そのスタイルですよね。定型の文芸であるということを頭に入れていただいて、十七音におさめるという、それが基本です。

人によって景色を詠みたがって詠む人もいますけれども、やっぱり川柳は人間を詠むという、そういう文芸ですから、景色ばかりでは困るんです。景色の中にやっぱり人間が登場するということでしょうね。

それから、時事吟といいますけど、世相を詠む、特に今年に限ってはコロナも続いたり、襲撃事件があったり、国葬問題があったりとか、いろいろありましたけれども、それも川柳ですから、それに対してもコメントはこの中でしております。

課題川柳というんですけれども、普通、川柳は江戸時代から課題の前に前句と言いまして、例えば切りたくもあり切りたくもなしみたいなものから、江戸時代から既に居候なんていう課題もありましたけれども、課題で作るというのが普通だったんです。

だけど、今は自由吟というのも重んじられますね。そうでないと不自由で書きたいことが書けなくなるということもあって、しかし課題吟というのをいずれ卒業しないと川柳も広がらないよというのが明治時代にありまして、それ以来、自由吟が多くなりましたけれども、私が思うに、基本的に課題で作るというのが川柳の面白さなんです。そこにとんちがあったり、知恵があったりして、それをどうとらえるか。皆と同じではなく、人と違う。例えば「ゆっくり」という題が出たら、ゆっくりと入れて作る人があれば、ゆっくりだから鈍行とか、それから牛歩とか、そんな言葉で言い換えたりという、それが川柳の面白さではあるんです。

もし、これからこういう企画をするんだったら、課題を与えるときちゃんと順位も付けられると思います。だから、今回は課題なしという、それはそれでいいんですけども、目的が何かということで、そういうことでは「書いてみよう」というのが目的だったわけだから、ちょっとやっぱり順位はつけられないかもしれない。

川柳にはその人の傾向が現れる。川柳は面白いんです、人間が見えます、作者が見えますからね。そして見えて本物なんです。

読んでもらうとわかりますけれども、リズムをちゃんとしなさいとか、これでは何だかわからないよというようなことも書きました。「ありし日の愛しき妻を思い出す」という句は、本当に自分の暮らしから出る作品を書いていたし、時事吟も書いていて、とてもいいものでした。あとの句は特に妻を思う句をここまで書けるというのに感動したので、感動しましたと書いておきました。

1人1句は間違いなく拾っていると思いますので、参考にさせていただけるとと思います。川柳をわかってもらうチャンスだと自分に言い聞かせてまんべんなく全部読みました。

やっぱり口で言えないことでも句にすると大胆に吐きだせたりするんですよね。やっぱりその後はすっきりするんです。書いた後は快感もあるんですよね、言ったぞみたいだね。だから、ぜひ川柳を楽しんでいただければと思います。

十分に皆さん力もあるし、これからの生涯の友に川柳をとと思います。すごく上手なものもいっぱいありました。

とても皆さん上手に作られていると思います。特に気をつけるのはリズムということで、定型の文芸ということをお忘れんでもらいたいと思います。

それから、ちょっとだじゃれっぽいのもありますけれども、それはそれで今の時代、テレビなんかでも川柳ということをやったりしているので、それは特に注意はしませんでした。でも、ちゃんと対句法や比喻や擬人法や、そういうものを使って作っている人もいましたし、とてもよかったと思います。

それから、「コロナ菌」という言葉があるんですけども、菌というのはキノコとか、そういうものを言うのであって、コロナはウイルスですから、菌は新聞社でも取らないし、これは間違い、誤用しているんですね。だから、コロナ菌というのはみんな注意してあります。菌というのはカビとかキノコのことを言いますのでね。

だから、川柳を一生懸命しようとしたら、子供や孫のでもいいので、辞書を横に置いてやるということは大切なことですね。それから、課題川柳が出て、まず「ゆっくり」と言ったら、説明されなくてもわかるなんて言わないで、これも辞書をひいて、そうすると書ける範囲が広がってくるんですね。辞書を友達にしてもらおうといいと思います。

川柳の句会、大会等があれば、皆、辞書はお持ちになっらっしゃるというのが普通です。

あと、出来上がったときに、そのまま出さないで、自分で一回、「舌頭千転」という言葉を芭蕉

さんが残しているんですよ。千転というのはたくさんという意味だと思います。千回数えなくたっていいんですが、そうやってすんなりと、ぎくしゃくしないで読めるような作品に最終的にするというのもやってみてほしいですね。

課題によって書きやすいとかはあります。「明暗」という題、難しいよね。明るい、暗いの明暗ですね。難しいでしょう。それから、あと「ゲーム」。トランプや、年をとった人は花札なんて書いたりするんですが、花札をやっている人がいるんだなと思ったりします。あとはテレビゲーム、子供たちが夢中になっているスマホゲームもあります。

ただ、課題を出すときは名詞だったり、動詞だったり、品詞が問題になると思うんです。名詞だとやっぱり入れたまま作らないとなかなか難しいでしょう。「いす」という題を出されたりすれば、四本脚があつてと書いていられないから、やっぱり「いす」というのをに入れて書いたりしますよね。だけど、例えば動詞なんかの場合だと入れなくても作れますよね。「走る」というのを出せば走るものはいっぱいありますから、自分も走りますし、新幹線だって走るし、そういうのがあります。あと言い換えることもできるのが動詞なんですね。車とか、そういうのに言い換えられるじゃないですか。

それから、副詞というのがありますね。「ゆっくり」とか、あとは形容詞もあるでしょう。結構大変なんです。

今は親ガチャとか、子ガチャとか、聞いたことがあるでしょう。ガチャガチャってゲームなんですか、お金を入れて回すやつね。「ガチャ」というのはオノマトペですよ。ガチャガチャとうちの子供は言っていた気がするんですけども、あのゲーム、そういう流行語のようなものもありますよね。そういうものに川柳を一生懸命している人は目ざとく使ってきたりするんです。私もいろいろなところの選をしていますけれども、やっぱり今年らしさというものを求めます。毎年やっていますから、そうするとこれを見たら、あの時だなとわかるようなもの、私はそういうのを選ぶのときに見るようにしていますけれども、そういう流行語にも敏感であつてほしいですね。昔昔の言葉だけがいいわけじゃなくて、やっぱり言葉も時代とともに変化していく。

常連は、うまい人はどうしようもなくうまいんですけども、でも新しい人も多いです。1年前から振り返っても変わっていますし、何か事件があるとわっと100通ぐらい増えるんですよ。やっぱり事が起きると書きたくなるのね、川柳をしている人は。

新聞川柳はやっぱりスピードというのも必要ですよ。ずっと昔起きたことを書かれてもとるわけにはいかないの、やっぱり今ということですよ。

会員の皆さんはこれで書けるでしょう。